

2015 5/26

No.1995

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



トライアスロンの世界シリーズ横浜大会が16日、横浜市中区の山下公園周辺特設コースで行われた。世界のトップアスリートが集結したエリート部門には男子65人、女子60人が参加し、山下公園を起点に横浜・みなとみらい21 (MM21) 地区を自転車などで駆け抜けた。



視点・点描	3
ものづくりの魅力伝えて	
講演録	4
「アベノミクス3年目の課題」 富士通総研経済研究所エグゼクティブ・フェロー 早川 英男	
経 済	8
日本人の格差認識、実態と乖離 所得分配を決めるのは国民	
政 治	10
民主党は論戦力を鍛えろ 1強多弱をどう乗り切るか	
国 際	12
朴政権、支持率上昇の不思議 政局混迷、外交は行き詰まり	
くらし2015	14
生活困窮者支援	
広告珍談	16
マンガのキキメは① T A R Oの父	
NNAアジア経済レポート	17
神奈川景気データファイル	18
神奈川景気データファイル	19

事務局だより

◇横浜定例講演会

2015年6月3日(水)

13時30分～15時

新横浜プリンスホテル 3階
「ファンタジア」

講師は日本個人情報管理協会
理事長の 中島 洋 氏

演題は「経営者がカギ握るマ
イナンバーへの対応～厳格に
なるプライバシー管理とトップ
の責任」(仮題)

◇横浜定例講演会

2015年7月9日(木)

13時30分～15時

崎陽軒本店 5階「マンダリン」
講師はレストランエンタプライ
ズ「駅弁マイスター」の

三浦 由紀江 氏

演題は「仕事は楽しく 自分に
限界をつくらない」(仮題)

視点 点描



ものづくりの魅力伝えて

いる。

アマダHDによると、新体制移行で事業ごとに分社化し、責任の所在が明確化され、成果も分かりやすくなるという。

代表取締役社長に就任した磯部

任氏は、ホールディングス化を機に、金属加工機械の総合メーカーとしての発展を目指している。神奈川新聞社のインタビューでは、営業、開発、製造、管理といった

それぞれの現場がこれまでに増して力を発揮できるようにすることに意欲を示している。

その上で、「レーザー事業で競い合うドイツの会社を引き離し、グローバルでナンバーワンの位置を確かにしたい」と力を込めていた。レーザー事業に関する今後の動向を注目したい。

アマダHDは神奈川の企業として、地域貢献に力を入れている。

今年3月に初めて開かれた横浜マラソンのスポンサーを務めたり、さまざまな県内イベントに協力している。地域の子どもらにもものづくりに対する関心を高める取り組みも進めている。

代表取締役会長の岡本満夫氏は、「世界中のものづくりと人々の豊かな未来に貢献し、お客さまとともに発展することがアマダHDの役割」と強調する。

産業立国・日本を支えてきたものづくりだが、技能の伝承や水準の向上が課題となっている。高い技術力を国内できちんと、若い世代に伝承していかなければいけない。アマダHDなど関連する県内企業には、ものづくりの魅力を広く伝える事業を推進することを期待したい。

(神奈川新聞経済部長

石曾根 剛)

順調に新たな一歩を踏み出した

ようだ。板金加工機械で世界有数のシェアを持ち、今年4月に持ち株会社制に移行したアマダホールディングス(アマダHD、伊勢原市)である。

アマダHDが先ごろ発表した2015年3月期連結決算は、売上高が前年同期比11・7%増の2865億2700万円と過去最高となった。利益面も各段階でいずれ

も増益だった。

円安効果で海外需要が堅調だったほか、国内も国の補助金や税制優遇策などが企業の設備投資の呼び水となり、業績伸長に寄与したようだ。

16年3月期も営業利益、経常利益、純利益とも増収を見込んでいる。国内企業の設備投資への意欲が引き続き高く、海外も北米を中心に好調に推移する見通しとして

TARROの父

まず、図をご覧ください。

1927(昭和2)年12月、朝日新聞に掲載された全ページ広告である。いちばん上に《朝日広告漫画》、左側に《一平試案》とある。

一平とは、朝日新聞に在籍したマンガ家・岡本一平のこと。タイトルの下に岡本が描いたマンガ、文章も一平の作。つまりマンガを、アイキャッチャーした広告である。右上から下へ、4コマ。合計12コマ。最下段に名刺広告のような、突き出しのような広告はスポンサー。コマにはそれぞれ商品名か、クライアアント名が入って、つづきマンガではない。まず右上から。

「こんないい自転車が6ヶ月月賦で八十八円だ」のコピーも岡本の作。自転車軌跡《∞》は無限定の意。「日米商会ラージ号」

が商品名。「たれも買はう」「あさしも」とは、江戸子が「ひ」を発音できず「し」とした。その下のコマは日魯漁業、3番目は「大分にぎやかだな」とマント姿で帰宅した亭主。「お歳暮にカルピスを貰ったんで家中悦んで踊ってゐるのですよ」と奥方。「カルピスタン

間に入ろう」と。

中列の上は、

「漱石氏の所謂住みにくき浮世を如何に住みよくすべにや」と、改造社の現代日本文学全集の広告。オニは浮世、分厚い本に守られて、夏目漱石

が読書中。

その下は「水モコボレヌ静粛ナ歩ミ!」「神ノ翼ノヤウナ速サ!」「姿ノヨサ!」。「自動車ナツシユ」が広告主。右書きだからたいへん。左下のお相撲さんは「常盤生命の保険に入ったら、親身の親に抱かれてるやうな気持ちがいいたしますのね」と女房。「そういへば会社のマークまで、愛の深いおやぢの顔に見ゑる」と。常盤生命のマーク模様のゆかたを着た親身

に、抱えられた若夫婦と赤ん坊。はてさて、マンガ家・岡本一平は1886(明治19)年生まれ。東京美術学校西洋画科を卒業後、帝国劇場で舞台装置を制作。1912(大正元)年、東京朝日新聞に入社。マンガは、「人生や社会を批判する画でなければならぬ。画筆を冷酷にメスのように揮り回し、文明生活の虚飾をさかなければならぬ」と本格派。世情を鋭く見つめる描写と、警鐘的な文章で、マンガの新しい分野を切り



マンガの新しい分野を切り開いた。妻は作家・岡本かの子、ムスコは洋画家・岡本太郎。独特の芸術論を展開したTARROは、大阪万国博(1970)年のミニユメント《太陽の塔》の制作で広く知られる。

(美術エッセイスト、茅ヶ崎市在住) 図「朝日広告漫画」1927年(昭和2)年12月16日、東京朝日新聞掲載